

麻布地域の人々が取材 編集する地域情報紙



アートな麻布に魅せられて⑨ 踊る、六本木の化身たち



大江戸線六本木駅改札口近くで目をひく壁画「PRIMAL BEAT (プライマルビート)」(写真1、2)。駅の開業以来15年間、不思議なキャラクターたちが1日平均乗降客約10万人*1という多くの人々を出迎え、また、見送りを続けている。意匠制作者・徳永雅之さんに見所などをうかがった。



2 壁画があるのは六本木交差点方面改札口内側。

六本木の街を根元的に可視化してみた

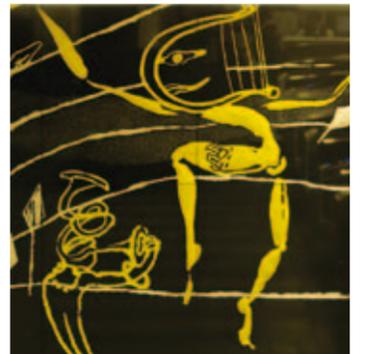
まずは「黒御影石、金箔、銀箔という重厚な素材と、軽妙で自由なキャラクターの組み合わせの妙」を感じてほしいそう。とにかく重たい感じにはしたくなかったという。制作に着手した1999(平成11)年当時、徳永さんの抱く六本木のイメージは、「エネルギー」だけれど個人的には「ちょっと汚い街、虚飾の匂いがする」。その一方でかつての六本木WAVE*2は新しい音楽と出会えるかけがえのないスポットであり、同じビル内のシネ・ヴィヴァン・六本木(単館映画館)にも通いつめていた。そんな徳永さんの音楽・映像体験が壁画の随所に顔を出す。息吹を与えられたキャラクターたちのモチーフは、打楽器・弦楽器・管楽器、レコード盤など。画面全体を流れる五線譜は敢えてヨーロッパ15世紀頃の譜面様にして絵に溶け込ませ、言語不明の文字は古代文字風にデザインした(写真3)。六本木のイメージを可視化した結果だ。「六本木のキラキラしている現代的なものは、駅を出るとすでにそこにあるので、むしろ、その奥にある太古からの人間のエネルギーを表現したかった」と

いう。タイトル「PRIMAL BEAT」(直訳すると『原始の鼓動』)もうなずける。

御影石を掘り、箔を定着して仕上げる

頭の中に描いたイメージを具現化してもらう為、石材職人さんに向けては掘る「深さ一浅さ」や掘り跡の質感(ツルツル〜ザラザラ)の希望を根気よく伝え、理解を得た。その結果、微妙な膨らみや曲面の表現のために、機械頼みのサンドブラスト工法*3以外に手彫りや磨き等の手作業も多く含まれた。最後に金箔・銀箔を漆で石に定着させる。当初、駅構内のパブリックアートという性質上、万一傘などでつつかれてしまった場合の「剥がれ」が心配された。実験(サンプルによるひっかきテスト)の結果、「御影石が破損するくらいの力でないと箔は剥がれない」ことがわかった。「箔を定着させる漆の強さ」に改めて感心させられたそう。

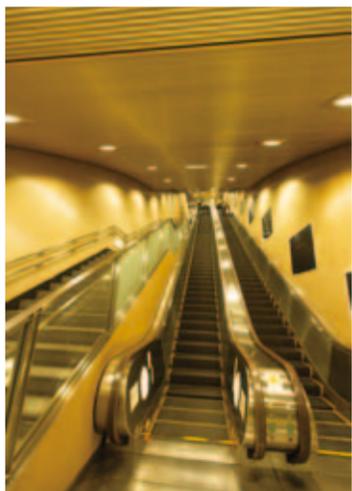
絶え間なくアップデートされる街の地下に、年中無休の無音のライブ会場。改札近辺の雑踏から垣間見える御影石に宿るキャラクターたちは、何だか今日も楽しそう。



制作中は全てのキャラクターに名前をつけて作業した。右から『はーぶくん』、『らっばー』。

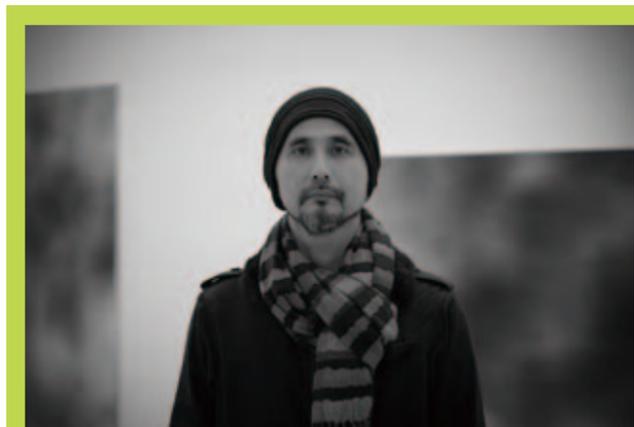


同じ深さに掘っても表面のツルツル、ザラザラによって金箔の光沢が全く違って見える。



六本木駅構内全体が黒と金色で統一されている。膨大な情報の波動を「空気振動で音を奏でる管楽器」になぞらえてデザインされたそう。

- *1 東京都交通局ホームページによると1日乗降客数合計100,590人。ただし改札口は2カ所ある。
- *2 先端的品揃えで音楽ファンから強く支持されていたオーディオ・ビジュアル販売ショップ。1983(昭和58)年開店、1999(平成11)年閉店。
- *3 砂などの研磨剤を非常に強い勢いで吹き付けて加工する技術。



徳永 雅之(とくなが まさゆき)

1960 長崎県佐世保市生まれ
1985 東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
1987 東京芸術大学大学院美術研究科(修士課程)壁画専攻修了
1991年から東京都内を中心に個展/グループ展等多数
2016年5月14日〜29日、ギャラリー由芽(三鷹市)にて個展開催予定
<パブリックコレクション>
2000 特別養護老人ホーム「さくら」エントランスホール壁画制作(東京)
2001 エンターテインメントクルーズ船「ROYAL WING」(神奈川)
2004 日本サムスン株式会社(プライベートコレクション)(東京)
2008 パークハイアット上海

<http://www.tokunagamasayuki.com>



御影石を掘る際に徳永さんがつくったイメージ伝達資料。上段は掘り跡の質感、下段は掘る深さのレベルを色別に指示している。

- 取材協力/東京都交通局
- 参考文献/駅デザインとパブリックアート (東京都地下鉄建設株式会社) 時空のアトリエ-建築家の夢と現実 守屋弓男(悠思社)

(取材・文/大村か美子)

麻布

未来へ残したい麻布の声



建築設計士
横島 久子さん

横島さんが60年以上住む麻布台1丁目の旧町名は、麻布我善坊町(※1)。再開発が決定し、徐々に整備が進んでいます。横島さんの自宅周辺も空き家が目立ちます。自宅に建築設計事務所を構え、この街をずっと見続けてきた横島さんに、歩んできた人生、街への思いを伺いました。

麻布我善坊町が私の人生です

アルバイトがきっかけで建築家の道へ

横島さんは昭和7年(1932)、下町の向島生まれ。4人兄弟の末っ子として育ちました。「兄が3人いて、待望の女の子ですから、かわいがられましたね。」と、横島さん。東京大空襲があった昭和20年(1945)、家は奇跡的に被災を免れました。普通の女の子として育ちましたが、女学校を卒業したら薬剤師になろう、と決めていました。

「夏休みに、2番目の兄から、大学の研究室でお茶汲みや清掃をするアルバイトを募集しているから、行ってみたら」と、勧められます。そこは建築設計の研究室でした。現役の建築家や卵たちが、一生懸命製図する姿に、横島さんは心を奪われていきます。当時はコピー機などありませんから、3ミリ四方の方眼紙を自分たちで作ることから、すべて手作業の世界でした。雑用の傍ら、横島さんは建築設計の勉強を独学で始めてしまいます。「勉強する材料が豊富にありましたから、おもしろかったですね。方眼紙をひたすら作ったり、自分なりにトレースしたり、教えていただいたり、すっかりのめり込んでしまいました。」

やがて、研究室のメンバーや教授からも一目置かれるようになり、設計を任せられるまでに成長していきます。

仕事と子育てを麻布我善坊町の家で

一口に建築設計と言っても、自分が設計した建物の工事が始まれば、現場へ足繁く通わなければなりません。女性だからといって、男性社会の中で甘えは許されません。実家からの通勤が大変だったため、横島さんは、現在の家に本拠地を移す決心をしました。

なぜ、この地だったのでしょうか。「兄一家が、麻布十番で電気店を営んでいて、しょっちゅう十番に遊びに来ていました。住むなら、十番周辺がいいなと、ずっと思っていました。」

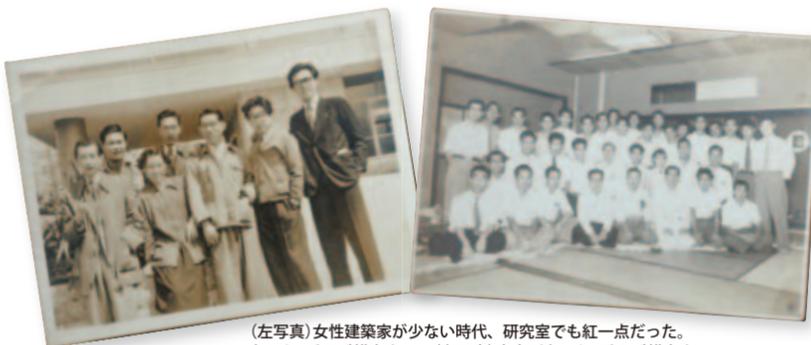
たまたま、今の家を見てすっかり気に入りました。「大正時代に建てられた家です。現在までいろいろ修繕していますが、直すのはお手のものです。今の家そのものはずっと同じなんですよ。」

父上は他界されていて、新居には母上も同居することに。そして、同居には理由があったのです。

シングルマザーとして、子どもを育てる決心をした横島さん。固い決意に動かされて、母上が子育てを共に担ってくれたのです。

「世間体を考えると、最初は家族全員反対でした。言ったらきかない私の性格を見抜いてくれた母が、最初に理解してくれて、一番の応援者になってくれたのです。」

産後、横島さんは独立し、自分の建築設計事務所を立ち上げ、母として、一家の大黒柱として、麻布我善坊町の自宅兼事務所で奮闘していきます。家族や周囲の理解、パートナーからの応援もあり、仕事も順調にこなしていきます。「母がいなければ、今の建築家としての私はありません。家事一切と、2人の孫の面倒を、亡くなるまで手伝ってくれましたから、本当に感謝しています。」



(左写真)女性建築家が少ない時代、研究室でも紅一点だった。左から3番目が横島さん。(右写真)中央列右から3番目が横島さん。

一方、昭和30年代は高度成長期にさしかかる時代でしたが、女性建築家として活躍するのは、人一倍の努力が必要とされる時代でした。2級建築士の資格を持つ横島さんも、その1人でした。「大学の建築科を出ているわけでもないのに、私は周りの人に本当に恵まれていました。」

日本で初めてできた女性の建築関係者の組織「ポドコ(PODOKO)」(※2)が昭和28年(1953)に設立され、その勉強会にも誘ってもらい、女性建築家同士の親交も深めていきました。



女性建築家の先駆的存在の1人だった横島さん。当時の女性誌では、インタビューをよく受けた。昭和30年代の「週刊女性」もそのひとつ。



掲載記事。建築現場の作業に立ち会う横島さん(右ページ)。庭園で構想を練る姿、事務所で設計作業をする姿(左ページ)



ポドコ設立の影響で、女性建築家が脚光を浴び始めるようになった。下段左が横島さん。

再開発が決まって

横島さんの自宅は、1本路地を入った場所に立っています。非常時での消防車や救急車などがスムーズに通行できる道幅が確保されていません。再開発の話が出て、横島さんも建築家として、一住人として、様々な会合に積極的に参加しています。「再開発が決定した以上は、私はこの目でしっかり見届けたいと思っています。この麻布我善坊町という、素晴らしい町名と街があったことを忘れないためにも、新しい麻布台に期待しています。」

平成29年(2017)には、再開発の整備が本格的にスタートします。残っている近所の方との付き合いも、ずっと続いています。横島さんの思い出がいっぱい詰まった麻布我善坊町の新しい姿を、私たちが目を離さず、見ていきたいと思います。

小柄で、常ににこやか、80代になっても現役で設計を手がけてきた横島さんのパワフルな行動力に、尊敬の念を抱かざるを得ません。現在も区民参画組織麻布を語る会「麻布地区版計画推進支援分科会」、「麻布未来写真館分科会」、そして再開発組合の会合などに足を運ぶ、多忙な毎日です。

自分の意見をはっきり述べる横島さんの姿は、とても素敵で、そして可愛い方でした。

横島さん設計の港区芝公園3丁目にある金地院の桶置き場兼倉庫。2階が住居になっている。間寛堂も横島さん作。スケッチから横島さんが手がけている。平成7年(2005)。



※1 麻布我善坊町 町域に我善坊谷があるので谷の名前をとって我善坊町と名付けられました。我善坊谷の由来については、座禅をする僧侶がいたから、あるいは二代將軍徳川秀忠の夫人崇源院の火葬の際の籠前堂があったからなど諸説があります。(港区HPより)

※2「ポドコ(PODOKO)」日本で初めてできた女性の建築関係者の組織。設立は昭和28年(1953)。設計事務所所属12名、大学院・研究所所属8名、学生5名、建設会社等4名でスタート(1953年度名簿)。エスペラント語で「考える、話し合う、そして創る」を意味する「PENSADO・ISKUTADO・KREADO(ペンサード、ディスクタード、クレアード)」の頭文字からポドコ(PODOKO)と命名されました。

(取材・文/高柳由紀子)



横島さんが手がけた病院看護婦宿舎の設計図一式

ワタシも麻布っ子

このコーナーでは、あなたの大切な“家族”を紹介していきます。

お兄ちゃんのチョコちゃんとおツーショット



駆けるチョコちゃん

今回は六本木にお住まいのKさんの愛犬チョコちゃんを、お孫さんで麻布っ子のRちゃんに紹介してもらいます。

●はや足のチョコちゃん

ボクが生まれるずっと前からおじいちゃん家にいるチョコちゃん。自慢のもこもこヘアで、おじいちゃんのお散歩にはや足でピタリと寄り添って歩くの。ずっと昔、スーパーマーケットにお買い物に行った時、おじいちゃんとはぐれちゃって随分怖い思いをしたらしいの。それからというもの、お出かけの時には、おじいちゃんの脇を絶対に離れないようになったんだって。でも、時々袋に入って楽チンすることもあるらしいの。僕もまだ抱っこしてもらってるから、お互いさまだね。

●公園でも人気者

チョコちゃんたら、すっごく頭が良くて、おじいちゃんのお散歩仲間をちゃんと覚えているの。顔なじみのおじいちゃんのお友達を見つけると、真っ先に駆け寄って、ピョンピョン飛び跳ねて「こんにちは」するの。だからみんなチョコちゃんのこと大好きなんだって。ボクもちゃんとご挨拶できる子になろう。

疲れたときはコレが楽チン!

●チョコちゃんの正体は?

チョコちゃんが人気者なのは、それだけじゃないの。ほら見てっ、このもこもこヘア。とっても個性的でしょ。触るとフワフワで気持ちいいの。こんなにこんもりしてるのに、駆けるのも早いし、高いジャンプもお手のものなチョコちゃん。ちょっと普通じゃないでしょ。いままで犬種(けんしゅっていうの? 秋田犬とかスコッチテリアなんていうワンワン達の種類のこと)を言い当てた人はいないんだって。さて、チョコちゃんは、何者でしょう?

ヒントは、シャンプーした時のチョコちゃんかな。まるで別人、じゃなかった、別わんこ! 答えは8ページの下を覗いてね。



得意の“待て!”ポーズ

あなたの大好きな動物をご紹介します。

必ず写真を添えて、下記宛てに郵送ください。飼い主の自薦、他薦は問いません。飼い主と一緒にの写真も掲載できます。ご応募多数の場合は編集会議に諮りますが、採否の審査過程のお問い合わせには応じかねます。採用させて頂く場合は改めて取材に伺います。お送り頂いた資料は採否に拘わらず返却致しませんので、予めご了承下さい。皆様からのご応募を心よりお待ちしております。

〒106-8515 港区六本木5-16-45

港区麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当 「ワタシも麻布っ子」応募係

お待ちしております♪



(取材・文/出石供子)

ガラスの可能性に魅せられて 創作の道へ

今回は元麻布にあるガラス工芸工房の「狩野ガラススタジオ」に伺いました。麻布学園の中学2年生2人が狩野智宏さんを取材しました。

◎この仕事を始めたきっかけはなんですか?

オートバイに乗っていた時、事故にあっけしきまい仕事ができなくなってしまいました。その事故によるリハビリの時、友達の父親が趣味で作ったガラス作品を思い出し、ガラス工房で体験として通いました。そのときこれが自分に合っているとわかり、この仕事を始めました。

◎この仕事のやりがいとは何ですか?

ガラス工芸はプロの職人の世界だと思っていました。しかしガラス工房で友達の父親の作品を見たとき、ガラスという素材を個人で扱うことができるということにびっくりしました。美術館でガラス工芸をみて、いろいろな表現があることを知り、ガラスは可能性に満ちた素材であると思い、ガラス工芸をやってみたくて思いました。

◎この仕事での苦労したことはありますか?

一からガラス工芸のための道具や設備少しずつ増やしていかなければなりません。またそれを使いこなせる技術が必要でした。しかし自分がやりたいことだったので、大変なことはありましたがあまり苦労だとは思いませんでした。

◎工夫していることや気をつけていることはありますか?

ガラス工芸の教室を運営しています。また公共の建築物にガラスを入れ込んだり、オブジェをつくったりしています。そして自分の作品を作り個展などを開いたり、大まかに分けて3つのことをやっています。ガラス工芸教室では生徒さんに楽しんでもらえるように、建築物にガラスを使う場合は安全性を第一に、自分の作品を作る場合は今まで見たことがないようなものをつくるようにしています。

これぞ課外授業! 1,000度を超える溶けたガラスの扱い方を教わりました。



とんぼ玉作り体験

とんぼ玉作りを体験させていただきました。ガラスの棒を溶かし、それを棒に巻き付けていきます。それを冷ませば完成です。ガラスを溶かす時の炎の強さに驚きました。でもとてもきれいなとんぼ玉をつくることができ、貴重な体験ができて良かったです。



小さいけれど貴重な完成品。正に「とんぼの眼」。



次は自分の番だと思つと、まばたきする余裕もない様子。

(取材・文/齊藤裕真、原野雅也 取材サポート/大村公美子)



ガラス造形作家 かのうともひろ 狩野 智宏さん

TVCM制作会社勤務を経て1986年よりガラス制作を開始。2001年、元麻布にガラス工房を開設。さまざまなガラスの技法を用いた自身の制作活動と共に、ガラスアート教室を運営している。

www.kanoglassstudio.com

ガラス造形作家

子どもに生きていく力を

KIDS!

親子で読んでみよう

ハローワーク



「どんな仕事でも一所懸命にやれば必ず「次」に役立つよ」と働く心構えも伝授してくださいました。



アンヘラ・マリア・チャベス・ビエティ特命全権大使
Angela Maria Chávez Bietti



グアテマラ共和国
面積: 108,889平方キロメートル(北海道と四国を合わせた広さよりやや大きい)
人口: 1,450万人
首都: グアテマラシティ
元首: ジミー・エルネスト・モラレス・カブレラ
議会: 一院制(158議席)

参考: 外務省ホームページ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/guatemala/>

グアテマラ共和国

取材協力/グアテマラ共和国大使館

大使を訪ねて 34
麻布の"世界"から



GUATEMALA

マヤ文明の誇れる歴史と日本と通じ合うやさしい国

グアテマラ共和国は、南北アメリカのほぼ中心地にあります。四国と北海道を合わせた面積よりやや大きめの国土を持ち、33の火山がある国です。アンヘラ・マリア・チャベス・ビエティ大使(Ángela Maria Chávez Bietti) (以下大使と表記)は駐日大使としては初の女性大使です。小柄でおっとりした印象で、お国自慢のグアテマラコーヒーをいただきながら、和やかなインタビューとなりました。

日本とは赤い糸で結ばれている

大使は2015年10月より、就任。大使として初の赴任地が日本となり、とてもワクワクしたと応えて下さいました。「前職は12年間、スイス・ジュネーブでグアテマラを代表する国連副大使として勤務していましたが、駐日大使として、アジアで一番重要な国に赴任し、光栄です」。

大使と日本の関係は、実は幼少の頃に始まっていました。家の敷地内に日本からの駐在員が住んでいて、自宅のリビングにも日本好きの母上が人形など飾ったり、日本の文化に触れる機会が多かったと言います。そのため、赴任が決まったとき、尚更嬉しかったとそうです。

日本人と共通の「親切」な国民性

日本人の印象を伺うと「親切でやさしいこと。グアテマラも親切な国民なので、それが一番の共通点ですね」。

では相違点は? 「日本は単一民族ですが、自国は多民族国家という点でしょうか。」1,450万人の人口の40%が、伝統を伝える22のマヤ民族(インディヘナ=先住民)に属し、カリブ海側は、アフリカ系カリブ人の系譜をとどめています(「グアテマラ インフォメーション」より)。さらにスペイン系の白人、ドイツ・イタリア・アメリカ・中南米からの移民も多い国です。多様性に富む多民族

国家ゆえに、お互いを認め、尊敬し合い、それが親切的な国民性に繋がっているようです。

日本の生活に溶け込んでいきたい

大使は日本人と同じように生活をして、日本人のことを理解したいと言います。休日には、ジュネーブ時代に結婚されたスイス人のご主人と、訪ねる場所をピンポイントで決めるそう。目的地までバスや地下鉄を使い、いろいろな場所に出没して、東京の生活を楽しんでいます。大使館周辺の西麻布や赤坂も散策します。最近のお気に入りの地は渋谷。理由を伺うと「手芸、縫い物が趣味なんです。」東急ハンズや西武デパートで生地やボタンなど材料を探して歩くのが大好き、と目を輝かせながら応えて下さいました。ジュネーブで使用していたミシンを、日本に持ち込んだとのことで、これには一同びっくりでした。

日本でこれから行きたい場所は、北海道との答えが。

グアテマラの食は「フリホレス」がおすすめ

日本の生活のすべてに前向きな大使は、日本食にも興味津々です。寿司では、まぐろやサーモンが好物。でもイクラは苦手、生卵と納豆も、と身振り手振りで素直な感想を述べられました。寿司以外はどうかが大好きとも。



世界遺産のティカル国立公園

残念ながら、日本にはグアテマラ料理を提供するレストランはありません。ペルー料理店で、グアテマラ料理に似た料理を出す店は発見済みです。反対に、私たちが現地へ行ったら、ぜひ食べておくべきメニューを3品教えていただきました。「タマル(TAMAL)」はトウモロコシの粉を団子状に練り、肉やトマトソースといっしょにバナナの葉などでくるみ、蒸したり、煮たりしたものです。トウモロコシの代わりにお米で作ることもあります。「ペピアン(PEPIAN)」は唐辛子、スパイス、トマトなどを焼いてからミキサーにかけ、ソースにします。これをベースに野菜や肉をいっしょに煮込んだスパイシーな1品です。



マヤ文明の伝統は織物文化に息づいている



フリホレス



ペピアン

おすすめの観光スポットはマヤ遺跡

大使に観光スポットも伺いました。チチカステナンゴ(Chichicastenango)は、首都グアテマラシティから140キロほど北西に行った地で、木曜・日曜に開かれる市場が有名。手工芸品が豊富に並ぶので、見るだけでも楽しいそうです。

また、国内には多くのマヤ文明の遺跡が残っていて、世界遺産になっているティカル(Tikal)もそのひとつ。ティカル国立公園で、ひときわ目立つ神殿は高さ51mの1号から70mを超える4号まであります。

8才の時に弁護士になって裁判所で働きたいと思った、という大使。日本をこよなく愛した母上がロールモデルです。来日して半年足らずの大使ですが、日本を理解したいという好奇心と意欲は人一倍、の印象でした。最近相撲を見に行っても感激しました、と嬉しそうなお表情はとてもチャーミングです。さわやかな印象の大使にすっかり魅了されて、大使館を後にしました。(取材・文/大澤佳枝、下地麻由子、関口誠、高柳由紀子)



そして、大使が一番好きな「フリホレス(FRIJOLAS)」。インゲン豆の一種で日本では入手困難な黒色の豆(赤の豆でも可)を使った料理。乾燥豆を蒸してペースト状にしたものと、玉ねぎを炒めた伝統料理です。豆料理は日本では甘いイメージがありますが、グアテマラは塩味です。母国の味、たとえばフリホレスを思い出す、と大使。



色鮮やかにペイントされた木製の仮面(犬)は手作り、元々はお祭りで使われる。動物のモチーフやスペイン人などの仮面もあり、アートとしても楽しめる。



グアテマラの色濃い自然と人々の素朴で明るいエネルギーを映し出したような手織物。女性たちが紡ぎ出す色彩と手織りの風合いが瓶を優しく包み込む。



グアテマラで幸運や繁栄の象徴で縁起が良いとされるふくろう。丁寧に色づけされた陶器の中には、貯金箱として使用されるものがあるという。

“土器(=どぎ)”という名前からも歴史を感じさせる坂だが、“土器(=かわらけ)”と読む。わざわざ難しい坂名をつけたその由来に興味津々、引き込まれていく。

「かわらけ」？「かわらげ」？

このあたりに土器職人が住んでいたのが坂名となった。また、平安中期の武将 渡辺綱が、ここで買い求めた馬が河原毛という名馬だったからという説もある。

故に「かわらけ坂」と「かわらげ坂」の二名が存在する。文字そのものの読み方から言えば、前者が正しいのだが坂名の由来から、いずれの呼び名も正しいようだ。

双方の由来をもう少し掘り下げると、「かわらけ」は坂下の「赤羽」が原材料となる「赤土(赤埴)」の土地であったため、土器職人が住まうようになったともいわれる。

「かわらげ」は、馬の毛色“河原毛”を指し、黄褐色から垂麻色の被毛が特徴の毛色である。

“渡辺綱”は、摂津源氏の源頼光に仕え、頼光四天王の筆頭として剛勇で知られた。港区には、彼に纏わる地名がいくつかある。(余談ではあるが、童話「金太郎」のモデルとなった坂田金時も四天王のひとり。)

「江戸砂子」に、「かはらけ町の坂也、むかし渡辺綱三田にありし時、此所を過るに馬工郎の引ける馬を見てもとめたり、此馬驢毛にして類ひなき名馬也、それより驢毛坂といふといへりいつのほにか土器坂といひ土器町といふ也、本名飯倉町也」とある。



歌川芳艶「渡辺綱」「頼光卿」「坂田公時」(1861年)「舞鶴市糸井文庫」蔵

ともに由来の信憑性は高く、相当に古い時代からあった坂であるのは間違いない。

麻布 未来写真館 土器坂

長い歴史に育まれた伝説の坂



現在の様に高層ビルが立ち並ぶ前の東京タワー(芝方面)からの麻布地区(六本木方面)の様子。写真下側東京タワー左手が土器坂下になる。写真中央右側にある大きな建物は現在の麻布郵便局。土器坂下付近に都電が走っている様子が見て取れる。昭和38(1963)年撮影:東京都提供

昔とは違う今の姿

坂の姿は、その昔は現在ほど緩やかではなく、急勾配であったという。都電が開通した際に電車でも通れるように、と改良された。現在の坂は、片側3車線と広く、緩やかに長い坂である。麻布にある坂の中でも1、2を争う長さだ。(港区内でも、とても長い坂の部類に入るのではないだろうか?)

(上る形で)坂西側(左側)には熊野神社があり、その祭礼の様子は近くに住んだ島崎藤村の『飯倉だより』にも登場する。

大正時代の作家で、三田文学を復活した水上瀧太郎は土器坂上ロシア大使館通りのお屋敷の子だった。「崖上から崖下の子供達を見つめる。一緒に遊びたいが気後れしている。熊野神社が子供達の遊び場所であった。」(『山の手の子』より)

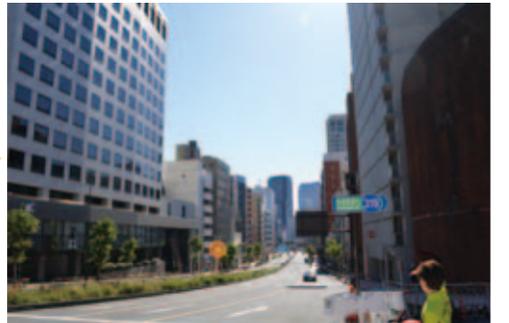
●参考文献/目で見える港区の100年 郷土出版社刊 加藤 征子・清田 和美・野々山 毅/著 続・麻布の名所今昔 (株)永坂更科刊 俵 元昭・佐藤 明・岩崎 和夫・源 友雄・村岡 淳/編(※非売品)



「赤羽橋」側が坂下で南側、「飯倉」が坂上で北側となる。



昭和50(1975)年:土器坂上から 写真撮影:田口政典氏 写真提供:田口重久氏



平成25(2013)年



昭和50(1975)年:土器坂下から 写真撮影:田口政典氏 写真提供:田口重久氏



平成25(2013)年

「麻布未来写真館」とは

港区麻布地区総合支所では、平成21年度から区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存を通じて、住民の方々にとって身近な歴史・文化的な資料価値を持つ写真を保全・継承し、より一層活用することを目的としています。同時に、まちの歴史や文化をより多くの方々を知っていただき、まちへの愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています。

未来に向けて、残し、伝えていくべき「麻布地区の古い写真」がありましたら、港区麻布地区総合支所までお寄せください。詳細につきましては、「協働推進課地区政策担当」までお問合せください。お問合せ 電話:03-5114-8812



華麗かつ堂々とした外観。(写真/個人蔵)

大正から昭和にかけての麻布区材木町63番地、現在の六本木6丁目、六本木ヒルズハリウッドビューティープラザの辺りに広岡家の邸宅があった。平成27年度後期連続テレビ小説「あさが来た」(NHK)のモデルとして描かれた広岡浅子とその娘夫婦一家が、本拠地の大阪のほかに、東京で過ごすためにつくった別邸だ。どのような建物であったのかを調べつつ、広岡家の人たちに思いを馳せた。



実業家としての威厳に満ちた浅子の肖像(写真提供/大同生命保険株式会社)

麻布の軌跡

広岡家の麻布材木町の家

浅子は麻布材木町の家で天に召された

これまで語られることの少なかった広岡浅子(1849～1919)が、ドラマや原作本を通じて、女性の社会進出が難しい明治時代にいか
に活躍したか、没後100年近く経った今、多く人の知るところとな
った。幕末の嘉永2年、京都の油小路出水の三井家(後の小石川三
井家)に生まれ、数え17歳で豪商、加島屋の広岡信五郎へ嫁ぐ。明治
維新によって深刻な財政危機に見舞われた加島屋だったが、浅子の
奮闘で再興する。そればかりか、炭鉱経営や加島銀行の設立、大同生
命の創業に参画するなど、実業家として卓越した手腕を発揮。また、
女性の境遇に不満をもっていた浅子は、女子の高等教育の志を抱く
成瀬仁蔵と出会い、ともに日本女子大学の設立に尽力する。そして
50代半ば夫の亡き後は、一人娘・亀子の婿として華族の一柳家から
迎え入れた帝大出の恵三に、家業の全権を一任する。自由な時間を
得た浅子は、若い学生と一緒に日本女子大学で授業を聴講し、
新聞や雑誌に次々と執筆、後進の育成のため御殿場の別荘に若い
女性を集めて勉強会を主催するなど精力的に活動した。そして、還
暦を過ぎキリスト教に入信してからは、布教活動にも力を入れた。
最晩年は東京、麻布材木町の家で過ごし、大正8年(1919)1月14日、
腎臓炎の悪化により、数え71歳で死去した。

広岡家の繁栄を語る豪邸。設計はヴォーリス

麻布材木町の家は、広岡恵三によって伝道者ウィリアム・メレル・
ヴォーリス率いる建築設計監督ヴォーリス合名会社に発注され、大
正7年(1918)竣工した。ヴォーリス作品といえば、ここ麻布ではほ
かに、西町インターナショナルスクール(元麻布)、麻布南部坂教会(南
麻布)、東洋英和女学院(鳥居坂)などでもなじみが深い。有能な恵三
は、加島銀行、大同生命の事業を盤石なものとし、まさにこの時期、
広岡家は破竹の勢にあった。当時はまだ大阪が商業の中心地であり、
企業の経営者らは東京の官公庁や銀行へ頻繁に出張していた。恵三
は、一男四女の子どものための教育のことも考え東京に別邸を計画す
る。とはいえ、一家のゴッドマザーたる浅子の発言は絶対で、恵三に
ヴォーリスを紹介したのは浅子だったらしい。その数年前から浅子
とヴォーリスは親交があり、広岡家の私邸は合計4～5軒、大阪の大
同生命肥後橋日本本社ビルもヴォーリスが手掛けた。また、麻布材木
町の敷地をどのように入手したのかは不明だが、1km程度と近隣の
麻布今井町、現在の六本木2丁目に浅子の実家、三井家の総領家の邸
宅があり、後に麻布界隈に次々と一族の住居が構えられたことから、
三井家が何らかの関与をしていたのかもしれない。

麻布材木町の家は4層構造の、ヨーロッパ調の
装飾豊かな外観をもつ。現在、ヴォーリスの志を
受け継いで事業展開し、建物の設計原図を保管
する、株式会社 一粒社ヴォーリス建築事務所の
協力で、筆者は原図を拝見する機会を得た。設計
図面は25枚にものぼり、その数は他の作品とは
比べられないほどのボリュームだという。1階は

フォーマルなリビングやダイニング、サンルームが、階上には家族の
人数分の個室と使用人部屋、書斎、衣装部屋などがずらり。セントラ
ルヒーティングを完備し、浴室は3か所にあり、各個室には暖炉や洗
面台が備えつけられるなど豪華な屋敷なのだ。また、麻布材木町は
麻布の中でも高台に位置し、近くと思われる今日の場合、六本木ヒル
ズの広場“66プラザ”からも、東南方向に視界が開け東京タワーを一
望できる。このことから、広岡家は、さぞ光あふれる見晴しのよい
快適な住まいであったろうと推察される。

恵三と亀子の子どものたちは、慶應や聖心女子学院、聖心インター
ナショナル、アメリカンスクールに通い、課外ではテニス、音楽、バレ
エ、生け花などの趣味をたしなみ、教養を身につけた。そして春や夏、
冬休みには大阪の本宅へ戻るという生活を送った。浅子は、かねて
より東京での暮らしを望んでいたというから、満足であったらう。
晩年は病気がちだったが、亡くなる前の年には唯一の著作(単著)
「週一信」を上梓、大阪YWCA(キリスト教女子青年会)創立準備
委員長に就任するなどの活動をした。おそらく家では、成長する孫た
ちへ助言したり、勉強会の愛弟子の訪問を受けたり、あるいは執筆を
するなどして過ごしたのではないかと推察される。

実際のところ、ゲストは頻繁で外国人も多く、竣工して間もなくアメ
リカ合衆国の大使、ローランド・モリスを夕食会に招待している。その
場で、ヴォーリスと華族である恵三の実家の妹・一柳満喜子が出会い恋に落ち、大正8年
(1919)6月に結婚し、披露宴もこの家で رفت。余談だが、当時、日本人が外国人と結婚す
る、ましてや華族の身分とあっては考えられないことだった。恵三夫妻は猛反対したが、
浅子だけは賛成し、亡くなる間にヴォーリスと満喜子の結婚を恵三に約束させたとい
う。浅子とヴォーリス、満喜子の絆について、機会を別にして語ることにしよう。



アメリカから伝道のために来日し日本に帰化したウィリアム・メレル・ヴォーリス(1880～1964)
(写真提供/株式会社 一粒社ヴォーリス建築事務所)

その後のこと

その後、この家は怎么样了。繁栄を極めた広岡家も、昭和2年
(1927)に発生した経済恐慌のおりを受け、加島銀行は廃業。恵三
は日本銀行からの多額の債務にあてるため、多くの資産を整理し麻
布材木町の家も手放した。そして一家が暮らすための新しい家を目
黒、現在の青葉台に建てる。それもまたヴォーリスによる洋館で、昭
和5年(1930)に竣工。ちなみにその跡地は、今はエジプト大使館と
なっている。

子どもたちは、第二次世界大戦と前後して留学、結婚、起業など
それぞれの道を歩んでいくが、モットーは“不言実行”であったと聞く。
それは、浅子が日ごろ語っていた「私は遺言をしない。平常言う事が
皆遺言である」という言葉にどこか通じる気がする。自らの主張は行
動することのみ貫ける、軌跡を残せる。それを美德とするのが広岡
家の家風なのであろう。



恵三(1876～1953)・亀子(1876～1973)夫妻と5人の子どものたち(写真提供/大同生命保険株式会社)



リビングルーム。ピアノは、音楽好きな子どもたちや満喜子も弾いたことだろう。(写真/個人蔵)



西洋建築ながらも、本格的な造作の和室が設けられているのが興味深い。(写真/個人蔵)



間取図、立面図などの原図が大切に保存されている。(資料提供/株式会社 一粒社ヴォーリス建築事務所)

- 主な参考文献●
- 「土佐堀川」 古川智映子 潮出版社
- 「メレル・ヴォーリスと一柳満喜子 愛が架ける橋」 平松隆円 監訳 水曜社
- 「二十世紀を八十六年生きて」 廣岡美恵子(岡崎公子 訳) ベティラヴィウム会通信23 ベティラヴィウム会
- 「広岡浅子語録」 菊地秀一 宝島社
- 「浅子と旅する。」 中尾祐子・フォレストブックス編集部 いのちのことば社フォレストブックス
- 「九転び十起き! 広岡浅子の生涯」 産経新聞出版

- 取材協力●
- 株式会社 一粒社ヴォーリス建築事務所 史料・広報室長 芹野与幸さんに、麻布材木町の家貴重な資料を見せて頂き、浅子とヴォーリスの接点についてお話を伺いました。また、広岡信五郎・浅子の直系のひ孫にあたる広岡和治さんに、広岡家のご家族についての貴重なお話を伺い、麻布材木町の家写真をご提供頂きました。厚く御礼申し上げます。

麻布地区総合支所からのお知らせ

麻布地区総合支所は、地域のさまざまな課題について、区民の皆さんとともに考え、行動し、解決に向けて取り組んでいます。

港区基本計画・麻布地区版計画書(平成27年度～平成32年度)

麻布地区は、区内4地区の総合支所と同様に前計画に引き続き、検討の段階から区民参画の手法を取り入れて「麻布地区版計画書(平成27年度～平成32年度)」を策定しました。計画書には、地域の実情や特有の課題を踏まえ、解決策や

●麻布地区の地域事業について③ (1～3はVol.33、4～7はVol.34を参照)

8 地方交流事業(管理課)

◆事業内容

地域の人々が主体的に続けてきた地方都市との地域間連携活動を側面支援するとともに、区民の方々に交流活動に関わる機会を増やします。また、児童に豊かな自然を体験する機会を設け、情操と見識を育み、健全な育ちを促す取組を実施します。



地元子ども達との川遊びの様子

◆今年度の主な取組(予定を含む)

- 交流先の調査及び検討
- 山形県舟形町へのサマーツアー実施(8月)

全体計画目標 (29年度末)	現状 (26年度末見込み)	事業計画			
		27年度	28年度	29年度	計
事業実施	—	調査・事業構築 事業試行実施	事業実施	事業実施	事業実施
事業費(千円)		2,914	4,500	4,500	11,914

9 地域サロン(ちょこっと立ち寄りカフェ)(区民課)

◆事業内容

高齢者が、住み慣れた地域で孤立することなく、安心して自分らしくいきいきと生活できるよう気軽に集い学べる場を提供するとともに、地域におけるボランティアを養成し、地域住民が互いに支え合う仕組みづくりを支援します。



ちょこっと立ち寄りカフェは毎月実施しています。

◆今年度の主な取組(予定を含む)

- 地域サロンの開催(月1回)
- 会場/飯倉いきいきプラザ、ありすいきいきプラザ、南麻布いきいきプラザ 等
- ボランティア養成講座の開催

全体計画目標 (29年度末)	現状 (26年度末見込み)	事業計画			
		27年度	28年度	29年度	計
サロンの運営 (4か所) ボランティア 養成	実施	サロンの運営(3か所) ボランティア養成 4か所目のサロン 運営の検討	サロンの運営(3か所) ボランティア養成 4か所目のサロンの 試行 運営	サロンの運営 (4か所) ボランティア 養成	サロンの運営 (4か所) ボランティア 養成
事業費(千円)		3,401	3,432	3,432	10,265

10 おもちゃライブラリー(管理課)

◆事業内容

乳幼児向けのおもちゃは、使用期間が短いにもかかわらず高価であることから、保護者が適切なおもちゃを選定できるように、良質なおもちゃの貸出しや講演会を実施します。



講演会の様子

◆今年度の主な取組(予定を含む)

- おもちゃの貸出し実施施設一覧
- 飯倉学童クラブ/毎日(日曜除く) 麻布子ども中高生プラザ/毎日
- 西麻布いきいきプラザ等複合施設(西麻布子どもふれあいルーム)/毎週月、木曜日
- 講演会の実施(平成27年6月、平成28年2月)

全体計画目標 (29年度末)	現状 (26年度末見込み)	事業計画			
		27年度	28年度	29年度	計
貸出事業 実施3か所 講演会18回	貸出事業 実施2か所 講演会9回	貸出事業 実施3か所 講演会3回	貸出事業 実施3か所 講演会3回	貸出事業 実施3か所 講演会3回	貸出事業 実施3か所 講演会9回
事業費(千円)		494	494	494	1,482

11 あざぶ達人倶楽部(協働推進課)

◆事業内容

麻布地区の魅力が高めるための活動を担う人材の発掘・養成します。また、講座修了者が麻布地区をより魅力的にするための自主的な活動を展開できるように支援します。



基礎講座(歩学)の様子

◆今年度の主な取組(予定を含む)

- 地域活動・学び体験講座(平成27年5月～平成28年3月)
- 基礎講座の開催(平成27年10月～平成28年3月)

全体計画目標 (29年度末)	現状 (26年度末見込み)	事業計画			
		27年度	28年度	29年度	計
実施 (認定・修了者 350人) ガイドマップの作成	実施 認定者260人 ガイドマップの作成 (2,000部)	実施 (認定・修了者30人) ガイドマップの 検討	実施 (認定・修了者30人) ガイドマップの 検討	実施 (認定・修了者30人) ガイドマップの 検討	実施 (認定・修了者30人) ガイドマップの 検討
事業費(千円)		7,092	7,223	7,223	21,538

お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当 電話/03-5114-8812

区民交通傷害保険について

平成28年度 港区民交通傷害保険加入の申込は3月31日(木)【金融機関での申込は3月22日(火)】までです

港区民交通傷害保険は、少額の保険料で加入でき、交通事故でケガをしたときに、入院や通院治療日数と通院治療期間に応じて保険金をお支払いする保険制度です。港区民交通傷害保険に、「自転車賠償責任プラン」を併せたコースも募集しています。日本国内において被保険者の方が、自転車または身体障がい者用車いすの所有、使用または管理に起因して、他人にケガを負わせたり、他人の財物を壊したりしたこと等によって法律上の損害賠償責任を負った場合に、保険金をお支払いします。※自転車賠償責任プランのみでの加入はできません。

詳しくは各総合支所で配布しているパンフレットまたは区のホームページをご覧ください。

- 加入対象者 平成28年4月1日午前0時時点で港区に住所がある人
- 保険期間 平成28年4月1日午前0時から平成29年3月31日午後12時までの1年間
- 加入方法

● 個人で加入される場合…各総合支所協働推進課協働推進係又は区内金融機関(銀行、信用金庫、信用組合、ゆうちょ銀行・郵便局)で配布する加入申込書に記入のうえ、保険料を添えてお申し込みください。

● 10人以上の団体で加入される場合…各総合支所協働推進課協働推進係で、団体加入申込書に記入のうえ、人数分の保険料を添えてお申し込みください。

加入申込期限

- 各総合支所協働推進課協働推進係 3月31日(木)
- 区内金融機関 3月22日(火) ※申込期間外の加入はできませんのでご注意ください。

引受保険会社/損害保険ジャパン日本興亜株式会社東京公務開発部営業開発課
千代田区霞が関3-7-3 電話/03-3593-6506

問合せ先/麻布地区総合支所協働推進課協働推進係 電話/03-5114-8802

SJNK15-15895 2016年2月2日作成

大使館紹介パネル展示を実施しています

麻布地区には48の大使館(平成27年12月1日現在)があり、外国人住民や外国人の来街者も多い地域です。地域事業「麻布国際ふれあい事業」では、麻布地区に立地する大使館と協働し、大使館を紹介するパネル展示を実施しています。

■展示期間

第1回 マダガスカル共和国大使館 【展示終了】

平成28年1月25日(月)から2月7日(日)まで

第2回 フィジー共和国大使館

平成28年3月16日(水)から3月29日(火)まで

■第1回マダガスカル共和国大使館

マダガスカルはアフリカ大陸の東、インド洋に位置する島国です。島固有の動植物が数多く存在し、世界最大のバニラの輸出国でもあります。パネル展示ではそんなマダガスカルの魅力をご紹介します。



マダガスカル共和国パネル展示の様子



大使館よりの展示物

港区麻布地区総合支所だより



新しい地域コミュニティの「かたち」を「みんな」で考える みんなでまちをよくする「ミナヨク」本格始動！！

港区麻布地区総合支所では、平成27年度から「麻布で“地域のちから”活性化事業」の一つとして、「今の時代に合った新しい地域づくりの在り方を検討すること」「次世代のまちの担い手を発掘・育成すること」を目的として、地域コミュニティ活性化事業である「ミナヨク※」を実施しています。

※麻布地区を「みんな」で「よく」するコミュニティデザイン活動



これまでの取組は？

平成27年度は、1月～3月までの期間、主に20代から40代の地域の担い手となる若い方を対象に、ご参加いただいた約20名のメンバーにより、様々なゲストとの対話、フィールドワーク、地域課題解決のためのアイデア検討、発表等を実施しました。

また、最終日には、アークヒルズで毎週開催されているヒルズマルシェにパネル展示を出展し、地域の方とふれあいながら検討してきたアイデアの意見交換を行いました。



平成28年度「ミナヨク」メンバー募集は？

平成28年度メンバー募集案内は、5月～6月頃、本誌面、広報みなと、港区公式HP、facebook「ミナヨク」等にて行います。詳しくは、下記問合せまでご連絡ください。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当 電話／03-5114-8812

広尾駅の放置禁止区域指定について

平成28年4月1日に広尾駅周辺に放置禁止区域を設定します。放置禁止区域内に放置されている自転車・原付バイクは「港区自転車等の放置防止及び自転車等駐車場の整備に関する条例」に基づき、即時撤去の対象となりますのでご注意ください。

自転車は、手軽で安全な乗り物です。しかし、歩道に放置されていると歩行者の安全な通行の障害となり、怪我や事故に繋がる危険があります。また、災害時には避難・救助活動の妨げにもなります。

広尾駅周辺の放置自転車を無くし、安全で快適な歩行環境を目指します。ご理解、ご協力をお願いいたします。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課まちづくり推進担当 電話／03-5114-8815



障害者差別解消法が施行されます

本年4月1日から、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」が施行されます。

この法律は、行政機関等や民間事業者に対し、障害を理由とする「不当な差別的取扱いを禁止」するとともに、障害のある人が日常生活や社会生活を送る上での「社会的障壁」を取り除く、「合理的配慮の提供」を求めています。

地域全体で障害を理由とする差別をなくし、障害のある人もない人も、お互いの人格と個性を尊重し、支え合いながら、ともに生きる地域社会の実現をめざしましょう。

不当な差別的取扱いの例

- 障害があるという理由だけで、サービスの提供や入店を拒否する。

合理的配慮の提供の例

- 段差がある場合に、車椅子利用者にキャスター上げ等の補助をする。
- 筆談、読み上げ、手話等の手段を用いて説明等を行う。
- 周囲の人の理解を得た上で、申請手続き等の順番を入れ替える。

法の規定

	不当な差別的取扱い	合理的配慮の提供
行政機関等	禁止	法的義務
民間事業者	禁止	努力義務

お問合せ／保健福祉支援部障害者福祉課障害者福祉係 電話／03-3578-2670 FAX／03-3578-2678

港区「六本木安全安心憲章推奨事業所等認証制度」 平成27年度 推奨事業所等が決定しました



六本木のまちでは、地域と行政が連携し地域独自ルール「六本木安全安心憲章」(以下憲章)に関わる取組を推進しています。

この取組の一環として実施している港区「六本木安全安心憲章」推奨事業所等認証制度は、憲章の趣旨に賛同する店舗・事業所等(以下事業所等)を募集し、その中から、積極的に地域活動に取り組む事業所等を推奨事業所等として認証するものです。平成27年度は、賛同された307件(募集時点)の賛同事業所等の中から、4件の事業所等を新規認証し、13件の事業所等を更新認証することに決定しました(表参照)。



認証した推奨事業所等へ送付する認証ステッカー

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係 電話／03-5114-8802

●平成27年度 認証推奨事業所等一覧(五十音順)

新規 4事業所

店舗 事業所名	取組内容(概要)
(株)天城	○定期的な防犯活動・清掃活動等を実施。 ○憲章の周知活動のため、地域の他店舗等に活動参加を呼びかける。
(株)立原商店	○町会や商店街の活動を中心に、防犯活動や清掃活動を継続的に実施。 ○憲章の周知活動のため、店舗前にポスター・ステッカーを掲示。
(有)たにぐち	○町会を中心に清掃活動、交通安全活動、防犯活動を長い間継続的に実施。 ○店舗内にポスターを掲示するとともに近隣に憲章の周知活動を実施。
(株)三井住友銀行 六本木支店	○定期的な清掃活動や登校時通学路の子どもの見守りを実施。 ○社内で清掃等の活動参加を呼びかけている。

更新 13事業所

店舗 事業所名
(株)エグゼクティブプロテクション
王帝商事(株)
(株)源氏商会
食処 竹やん
(有)下條ビル
東京ミッドタウンマネジメント(株)
東洋英和女学院
フォトショップ銀嶺
みずほ銀行 六本木支店
(学)メイ・ウシヤマ学園
三井不動産(株)
東京ミッドタウン事業部
森ビル(株)
六本木共同ビル(株)

麻布っ子の答え
トイブードル
飼主のKさんが子犬の頃からブードルらしいカットをしないとどうなるか、試してみたそう。モコモコしているのに身軽なのも納得です。

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せください

ご住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電話／03-5114-8812 ●FAX／03-3583-3782

編集委員を募集しています

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧になれます。



「ザ・AZABU」は英語版も発行しています。

ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉の各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

- Chief 田中亜紀
- Sub Chief 高柳由紀子
- Staff 出石 功子 関口 誠 石川 味季 田中 康寛 大澤 佳枝 寺尾 周祐 大村 公美子 森 明 折戸 桂子 山下 良蔵 下地 麻由子 渡辺 久剛 Junior Staff 齊藤 裕真 原野 雅也

編集後記

ポストに入っているザ・AZABUという新聞を目にしてから、自分が住んでいる場所のことを知りたいと思ひ編集会議に参加させていただきました。この会議は気軽に参加させていただけます。2回目の参加ですが、地元の皆さんが普段何気なく歩いているところのオブジェや、地元の歴史を資料を集め、足を運び、今まで知らなかったことを記事にしていけるのです。その取材時のお話なども聞けるのでとても楽しいです。 石川 味季

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。年中無休/午前7:00～午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話／03-5472-3710 FAX／03-5777-8752 Eメール／info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp